

リスクアセスメント表（数値化方式） リスク値 = 重大性S × 可能性L × 頻度F

S・L・F はブルダウンから選ぶとリスク値とレベルが自動計算されます。点数の意味は「凡例」シートを参照してください。厚労省「危険性又は有害性等の調査等に関する指針」準拠。

事業場名				実施日			/ /		実施者			次回見直し		/ /
No	作業	危険源（ハザード）	想定される災害	S	L	F	リスク値	レベル	既存の対策	残留リスク	追加対策	担当	期限	実施確認
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														

リスクアセスメントは「実施して記録する」だけでなく、残留リスクを次回に引き継ぐことで機能します。現場のヒヤリハットを継続的に集めると、危険源の洗い出し漏れを防げます。「安全ポスト+」（anzenpost.com）はQRコードで匿名報告を集め、AIが4Mで自動分類します。この用紙は無料で配布しています。

リスクアセスメント表（マトリクス方式） 重大性 × 可能性 → ランク A～D

重大性と可能性をプルダウンで選び、「凡例」シートのマトリクスでランク（A～D）を判定して記入します。数字が苦手な現場でも合意形成しやすい方式です。

事業場名			実施日		/ /		実施者		次回		/ /	
No	作業	危険源（ハザード）	想定される災害	重大性	可能性	ランク	既存の対策	残留	追加対策	担当	期限	実施確認
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												

ランクの判定基準と対応期限は「凡例」シートを参照してください。「安全ポスト+」（anzenpost.com） — QRコードで匿名報告、AIが4Mで自動分類。この用紙は無料で配布しています。

リスクアセスメント 判定基準（凡例）

重大性 S（数値化方式）		
区分	点数	内容
致命的	10	死亡・後遺障害
重大	6	休業1か月以上
中程度	3	休業1か月未満
軽微	1	不休または応急処置

可能性 L（数値化方式）		
区分	点数	内容
ほぼ確実	6	安全対策がない／無効化されている
可能性あり	4	安全対策が不十分
可能性低い	2	安全対策はあるが油断すると発生
ほぼない	1	十分な安全対策あり

頻度 F（数値化方式）		
区分	点数	内容
頻繁	4	毎日／1日複数回
時々	2	週1～月数回
まれ	1	年数回以下

リスクレベル判定（数値化方式）		
リスク値	レベル	対応
60～240	Ⅳ	直ちに作業中止、対策完了まで再開不可
20～59	Ⅲ	速やかに対策（1か月以内）
6～19	Ⅱ	計画的に対策（3か月以内）
1～5	Ⅰ	必要に応じて対応

マトリクス方式（重大性 × 可能性 → ランク）			
	可能性：高い	可能性：中	可能性：低い
重大性：致命的	A	A	B
重大性：重大	A	B	C
重大性：中程度	B	C	C
重大性：軽微	C	C	D

ランク別の対応（マトリクス方式）		
ランク		対応
A		直ちに作業中止、対策完了まで再開不可
B		速やかに対策（1か月以内）
C		計画的に対策（3～6か月以内）
D		残留リスクとして許容、定期見直し

厚労省指針の5ステップ（この表のどこに書くか）		
ステップ		内容 → 記入欄
1. 特定		危険性・有害性の特定 → 作業欄／危険源欄
2. 見積もり		リスクの大きさを評価 → 重大性／可能性／頻度／リスク値欄
3. 低減		対策の優先順位を決定 → 既存対策／追加対策欄
4. 記録		実施内容を記録・保存 → 担当／期限／実施確認欄
5. 見直し		残留リスクを再評価 → 残留リスク／次回見直し日欄